

刊夕日一廿月一十



定価一部金貳圓一 五拾銭 郵費別
廣告料五號十二字一 行金五拾銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
社址 常磐毎日新聞社
電話 六三〇
印刷所 常磐毎日新聞社
印刷機 活版式

救護法に就て

平町共済委員 門傳清吾

(三) 妊娠婦なること

一般妊娠婦は通常或期間胎幼兒の爲めに休養するの例であるのに拘はらず、貧困な爲めに生活せねばならぬ必要上無理な労働に従事することは單に生理上悪影響がありて其胎兒の健康に至大なる關係を有するのみならず精神的にも非常なる不安と脅威とを蒙る結果胎幼兒の教育上多大の障礙を來すことの虞あるのを之を救護して是等の弊害を除去せんとしたのである但し右の場合何なる程度範圍及期間に於て救護すべきかは前記第一條、第二項に於て規定する通り別に勅令を以て定むることとなつて居る、縣社會課の説明する所に依ると産前一週、産後は三週間の程度で市町村長から補助することになつて居ることである、尤も産前は具體的事情に依りて一週間丈延長することが出来ることであるから産前は二週間の最大限と心得て良いと思ふ、然し實際に於ては夫れ以

(四) 不具、癱疾、傷疾、其

他精神又は身体の障礙に因り労働を行ふに故障ある者なること
之は説明を要する迄もなと思ふが此場合特に注意せねばならぬことは、假令不具、癱疾等の者でも労働し得る者は包含せぬことである、又全然労働し得ざるにあらざるも生活し得る程度の働きを爲し得ざる者において一定の救助額から労働に依る収入を減じて其不足額を救助することになることを知らねばならない此程度に就ては第十條を説明する場合に述べるところとする

逃げた猿

矢野泰助

「あれ、下駄屋の方へ行く」と誰かがいひました。その時、茂は、人々の間を

んだよ」
茂は二匹の頭をなで、やり「さあ来い」
と、手招きをして歩き出すと、猿もその後につぎまじつた。
人々は家から出て来て「よく慣れたものだなあ、(終)

回冬衣暴落品新荷着回

着尺モスと本場銘仙
御婚禮衣裳七五三御祝着
新柄豊品に取揃へました
新型シヨール入荷

三井吳服店

電話 二八四

専門 内科一般

住宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重之
女醫 川井安子
電話 一八一番

貸切は●●●

セダン揃ひで
貸切専門の
昭和タクシーへ

電話 三四三

魚清のなべ類

例年の通り始めました

- 鳥なべ 御一人前 三十五銭
- ちりなべ 三十銭
- よせなべ 三十銭
- ねぎなべ 三十銭
- かきなべ 三十銭
- はもなべ 三十銭
- あんこなべ 三十銭

魚清食堂

平町三丁目電話六三三番

山富士、保険は三井

寄らば大木の基

貯蓄と保険を兼ねた最も有利な保険
、保険は文化の生存競争の基礎
、保険加入すれば明日より明るい道を照す
、保険は一家團圓の基礎
、保険は老へ行く先の御樂みに
、老へて泣くも笑ふも自分の心掛け一つ
、保険加入の有無は自己信用の尺度
◇皆さん今日と言はず明日と言はず善は急げの諺あり奮つて御加入の程をお勧め致します

三井生命代理店主幹 佐藤 永春
全 専囑社員 福島 寛利
平町紺屋町二

冬服貯蓄

紺色柄物... 三ッ揃... 拾 貳 圓
最新柄 スコッチ... 三ッ揃... 拾三圓五十銭
最上紺黒... 三ッ揃... 拾六圓五十銭
高級品... 三ッ揃... 拾九圓
ウーリステット

平町正札堂洋服店 電話四三六

可愛い、姉妹の慰問金 書信を添へて 本社を通じ 今日發送す

昨報——平第二小學校生徒飯塚てふ子さんと子さんの可愛い、姉妹が在滿兵の苦闘を思ひやり御大典紀念貯金の中からてふ子さんが金三圓と子さんが金二圓を拂下げて本社を通じ滿

『毎日通學の途中 縣社に勝利を祈る』

真心こめて作った
てふ子さんのおたより

支那 争が始まつて面白
いなあ勇ましいいな
と 毎日日々先生や
お父さんから其の
話を聞くのが楽しみでした
が今日此の頃は半分寒く
なつてこちらに居ても手
の先がしびれる様ですが
ら定めし滿洲は寒いこと
とお察し致します、それ
に戦死する方も多い様で
ございます、先生の話を
うかがひますと零下二十
度位だとの事で零度で氷
がはるのだから霜やけに
かゝる兵隊さんなど澤山

崎川 本社
明廿二日東京日本橋白木屋増築落成記念
兒童大會の招聘で講演のため今朝五時二
十分平驛發列車にて上京廿三日歸平の啓

記念につんでおいた
貯金 げてこれでおか買
つてもらつて送り
たいと思ひ、妹は
ささ 三圓、私は三圓下
げて、受け持の先生に申
出ることになりました、少
しばかりではづかしい様
なお金でございますが何
か買つて役に立て、下さ
い、そして 天皇陛下の
爲め、お國の爲め御奮闘
して私等を守つて下さい
通學の途中毎日縣社に勝
つ様お祈りをしておりま
す、お金は同封致しまし
た、お受取り下さつて役
に立て、下さい。
福島縣平町平第二小
學校 飯塚テフ
滿洲の兵隊さんへ

『暖い物を おあがり』

さと子さん

朝 になりました、私ど
もは毎日元氣で勉
強をして居ります
先生やお父さんか
らうかがひますと滿洲は
こちらなどよりも寒く今
雪が降つて居るとのこと
です、この寒さに日本の
ために支那の兵隊と戦
争をして居られるとの事
であります。

私どもがこうして毎日學
校で勉強して居られるの
も 戦争をして居られ
るおぢさんたちの
おかげであります
私は時にお小使に
いたゞいてためたわづか

平第一の 石崎少年 書状を慰問

目下嚴寒の北滿の戦線で活
動する我が第二師團の諸隊
の辛苦は想像以上で石城郡
下からは是等出征兵士への
慰問續出して居たが平第一
小學校五年生石崎久雄(十五)
君は自分の貯金のうちから
金二圓と左の如き書状を認
め出征兵の慰問品購入にと
町役場宛に寄贈して来た
寒氣は日々くわゝつて參
ります、あの寒い滿洲の
野に御國の爲に働いてお
られます兵隊さんの御健
康をかねがね祈つて居
ります、これは私のほん
の心づくしですが、何か
慰問品を買つてあげて下
さい。

ばかりのお金であります
がどうぞおからだのため
になるあつたかいいものを
買つておあがりになり、
日本のためにおはたらき
下さいませ。
そしてせひ、支那の兵
隊をまかして下さい。
福島縣石城郡平第二小
學校尋常三年生
飯塚さと子
滿洲のおぢさんへ

慰問一束

好問村青年團 石城
郡好問村男女青年團三百名
は二十三日團長鈴木榮一氏
引卒のもとに赤井嶽に登山

勿來舊校舍 敷地公賣

町民間には
不滿高まる
石城郡勿來町では此の程の
町會で舊校舍敷地千二百坪
の賣却を決議し廿七日公賣
に決定したが相場は二、三
年前の半額に下落し坪當り
五圓見當でさへ入札者の有
無を氣遣はれ町會内部の不
統一から公賣の時機を逸し
た點につき町民間に不滿の
聲が高まつてゐる模様であ
る

年々増加する 就學兒童數

七五五名に達す
明年度の平町内調査
四五の二日間兩村各小學校
に於いて開催するが講師と
して郡農會の柴田技手が出
席する筈である

平町人事

△新町三二 桑原仙松氏三男進
△古殿治町九一 神谷辰夫氏二男務
夫
△北目六六 當時東京府下豊多摩郡
中野町上町箱崎柳二氏 長男廣泰
△長橋町二七 當時東京府下小石川區
久野町九〇 室越徳太郎氏長女節
子
△宮城縣松島町町内 大宮司勝五郎
(三二)平町四丁目二六 猪狩イネ
(二四)
△長橋町 當時東京府下小石川區久野
町 室越徳太郎(三二)東京府下北
多摩郡谷保村 三田ミヨ(二七)
△立町八五 鈴木キキ(六〇)
△大工町二二 齋藤金房(三三)

装新のルパンコ

3階には西洋間が出来ました。
2階は宴會のホールと日本間。
1階の食堂は廣くなりました。

洋食茶會
洋喫宴會
電六六番
平驛前通

舊倍の御引立を偏に御願申ます

求職の部

△電機器械製作 十八才
乙種商業(新川町某)
△職職 二十五才 高卒
(長橋町居住)
△ラヂオ店員 十九才 高
卒(大野村某)
△牛乳配達 三十一歳 尋
三修(湯本町某)

平町人事

△新町三二 桑原仙松氏三男進
△古殿治町九一 神谷辰夫氏二男務
夫
△北目六六 當時東京府下豊多摩郡
中野町上町箱崎柳二氏 長男廣泰
△長橋町二七 當時東京府下小石川區
久野町九〇 室越徳太郎氏長女節
子
△宮城縣松島町町内 大宮司勝五郎
(三二)平町四丁目二六 猪狩イネ
(二四)
△長橋町 當時東京府下小石川區久野
町 室越徳太郎(三二)東京府下北
多摩郡谷保村 三田ミヨ(二七)
△立町八五 鈴木キキ(六〇)
△大工町二二 齋藤金房(三三)

護國の鬼神中田伍長 遺骨あすぞ歸る

官民一同哀弔の裡に 平驛着零時五十五分

死して歸らぬ覺悟も今は悲しき現實となつて暗雲冷たく漂よふ哀悼の故郷へ護國の鬼と化して歸る石城郡江名出身伍長中田七藏君の遺骨は明二十二日

午後 零時五十五分平驛着磐越線列車にて伏見平町長山崎石城在郷軍人分會長等と共に到着することになつたが同驛には遺族を初

め官民多數團體が出迎へ到着後遺骨は直ちに平驛樓上貴賓室に安置し遺族外各代表等列立禮拜し終つて葬儀車に誘導され

江名 町小學校庭に設けられた祭場に安置する豫定であるが同町では午後三時より同祭場にてしめやかに官民合同の慰靈祭を舉行すると

非常警戒の大捕物

二人組強盗

時計現金強奪

北目地内で青年を襲ひ
今廿一日午前三時平署では非常召集で町内を警戒中北目地内の警戒線へ一名の青年が追刺にやられたと訴へ出たが同人は石城郡平窪村字中平窪菅野佐次郎(三)と云ひ同夜平町

南町の飲食店にて泥酔しての歸途北目町地内で二人組の怪漢に襲はれ金剛懐中時計一ヶ現金十二圓餘を奪取されたもので署員は直ちに全警戒網を嚴重にしてゐた際新川畔の暗闇を通行中の青年を大格闘の上取

押へたが同人は石城郡江名町生れ根本丑松(三)と云ひ嚴重取調中四時半頃またもや八幡小路附近の警戒網に擧げられた

曲者が あつたが同人は石城郡内郷村高坂小野田坑夫春川三三(三)といづれも口を滅して居たが遂に前記二人組の犯行を自白した

母娘家出

亭主搜索願ひ
石城郡四倉町伊藤乙次郎の

妻サダ(八)は本月十一日娘のハル(三)を連れ突然家出

平町内廿三ヶ所に 警戒網を張る

平署管内非常召集

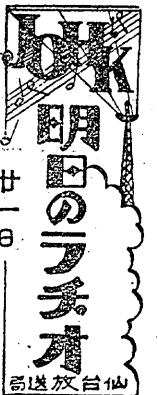
犯人逮捕演習

平警察署では昨夜十二時半より管内全員の非常召集を行ひ服装其他の検査の上午前三時半より假想犯人の逮捕演習に入り平町内廿ヶ所に警戒網を張り

全員變装

の上今朝四時迄演習を續行無事終了したので七時より平署會議室に全署員及平區裁判所市川検事消防組員在平新聞記者等を招待懇勞會を開き九時散會したが非常召集の結果はいづれも好成績で殊に鈴木(綴)高橋(御座)の

駐在署員 がいづれも召集と同時に二十分以内に本署へ駆付けて最短レコードを作つた



今夜は北の風曇り明日は北東の風曇り後時雨

今晚の部

後六、〇〇 童謡と唱歌
一、齊唱香蘭 二、獨唱「花火」居眠り地蔵 阿部愛子 三、對話童謡「桃太郎」四、獨唱「月光」草刈女「しやぼん玉」五、獨唱「旅愁」村山菊枝 六、二部合唱「希望の囀」後六、三〇 英語講座 青

明日の部

前九、一〇 榮養料理
前九、三〇 合唱 四部合唱「青年の唄」他七曲指揮 椎野開藏
前一〇、〇〇 修養講座「眞力に生きた人」阿部恵水
前一〇、〇〇 講演「書道に就て」小笠原長生
後〇、四〇 落語「巖流島」蝶花樓馬琴「たらちめ」三遊亭金馬「三井の大黒」立花家丹藏「湯屋番」柳家小三「寢床」桂文樂「三十石」三遊亭丹生
後六、〇〇 趣味講座「柿

の語」佐々木喜善
後六、三〇 ラヂオ講座「電氣醫療器とラヂオの雑音」 岩田角太
後七、三〇 獨唱 雉狩り 他五曲宮下晴子時雨山路 他五曲宮下晴子
後八、〇〇 木琴獨奏「小島の聲」他 岩井貞雄
後八、一五 童話劇「おほなむちのみこと」澤村宗之助兄弟
後八、四五 木琴獨奏「スバ温泉の思ひ出」他二曲 岩井貞雄
後九、〇〇 兒童劇「福壽草と冬の神」

第一、二、三校を通じ二十名に達し大部分は高學年だが中には痛いけいな尋常二三年生も混り曉天霜柱を踏み痛々しさは行詰まれる世相を充分に物語つてゐる

運轉手罰金

電柱に衝突

石城郡大浦村上仁井田北濱五九自動車運轉手門馬美代吉(一)は八月廿四日乗合自動車運轉大浦村地内を四倉方面に疲走中誤つて道路右側の電柱に衝突し乗客齊藤和助に全治四日間の重傷を負はせた事件に關する公判は十九日平區裁判所に開かれたが罰金廿圓を言渡さる

益々殖える

納豆賣子

平町に廿名

平町の各小學校では昨今貧困家庭の缺食兒童が目に見えて増加し救護方法を考究中であるが之と共に家計を助けるため街道に健氣な活動を見せつゝる納豆賣子が

小鼠泥伊助の 犯行實に十三件

平町を中心

近在各所を荒し廻る

石城郡神谷村中神谷字瀬戸 伊助(三)は去月廿三日平町生れ住所不定前科四犯鈴木 胡摩澤鈴木ヒデ方に忍入り

炭車に衝突

運搬夫罰金

石城郡三坂村中三坂生れ當時湯本町八仙入山炭坑社住宅居運搬夫折内甚吉(三)は去月十七日入山炭坑内にて炭車運搬中ハドメ装置を遺失した爲め他の炭車三臺に衝突し脱線轉覆せしめ運搬夫寺山四郎外二名に全治二週間乃至二ヶ月の重傷を負はしめた傷害事件に關する公判は去る十九日平區裁判所に開延されたが折内に對し罰金五十圓の判決言渡しがあつた

歐米教育視察談

廿八日第一校にて
来る廿八日午後一時より平第一小學校では東京盲學校長秋葉馬治氏を招聘し歐米教育視察談があつたと

珠算講習會

平第一校では來月二十九、三十兩日星伊策氏の珠算講習があつたと

小説



【載轉禁】

渡邊默禪作
布施平八郎畫

謎の人 (1)

爺さんは畑からだら／＼上りの庭に這入つて薔薇だの草花だのを栽へてある花壇を大股に越えた、さうして故意と違れの横へ出た、見ると雨戸がまだ閉つてゐた、母家から渡してある廻廊の入口もびたと扉が鎖してあつた、沓脱石の上を見ると、奥さんの穿いて居るフェルト草履が不行儀に脱ぎ捨てたまゝになつて居たが、他に履物らしいものはなかつた。

更にぐるりと廻つて外廻りを改めたけれども、慥うと云つて變つた様子を見出す事も出来なかつた。「はてねエ、誰れも居ねいかなア」

彼は口の中で呟いた、圓窓の處へ来て暫らく耳を立てた、が、寂然として衣擦れの音一ツ聞へなかつた。「未だ、寝てござるかな」

悪いと知りながらも嘗めすつた指先が器械的に動いたかと思ふと、ふいと窓の障子にくつついたやがて少しばかりの紙を蠶豆程の穴をあけた、さうして摩すつた眼を其處へ持つて行つておつかなびつくり覗き込んだ。

中には何者が居たか。びいどろ造りのやうに光の疎くなつた眼がひよいと紙の穴から離れると、儀平爺さんはずいと軀を立て直して大儀さうに腰のあたりを撫てた、さうして竹箒を持ちかえて反身に空の雲を



見あげた。

「はてね」

獨言を言つてから離亭を後に花壇の方に下りかけたが、ふと思ひ出したやうに後戻りをして再び穴を覗きかけた、途端に離亭の内でオホ、と云ふ呟拂いが響え

た。爺さんは吃驚りして飛びのいた。「これだ、其處に来て居るのは」なかで郁子夫人の聲がした、足音を聞かれたのだなあと、爺さんはどきまじしなから「手前でございます」慌てた手附きで竹箒を椿の植込の中へ突込み、其處にぼた／＼と落ちて居た絞の花をやけにかき出してすらく／＼と箒の音を立てさせた。

取りに来たのであらう甘藍畑の中に入つて、どれを切つたものかとそこいらを見廻して居た、「どんな鹽梅だつたね、爺さん」離亭の方を振り向いてから低聲で聞いた。「何うもありやアしねいじやないか」誰れか泊つて居る様子じやなかつたけえ」爺さんは竹箒をかついた儘畦の處に立止つた。「誰れも泊つて居やしねいよ、奥さん一人でいゝ心持さうに、寝てござるだ」

新趣に輝き 實價を誇る 各種 運動服 具装 大廉賣 塚大運動具店 平・田町 電七七番

十二月二十二日、二十六日 新築謝恩大賣出し 粗品呈上 品めとつお 新朱子トントンビビ八五〇ヨリ 新毛子トントンビビ八五〇ヨリ 新オセルゴトリトリ三三三ヨリ 新モセルゴトリトリ三三三ヨリ 新大子マンマンマン四〇〇ヨリ 新上子マンマンマン四〇〇ヨリ 新襟上マンマンマン四〇〇ヨリ 品仕奉別特 防オセオセオ均一 防水バロバロ均一 ント水バロバロ均一 五〇均一 五〇均一 三〇二 平電 三三〇

安...賣 市價半額 舶來生地メニスカス近眼玉 一組 一圓拾錢 優等品白生地栗山近眼玉 一組 六十錢 新メニ玉スドシ 白イロイロ 各一組 四十錢 白イロメガネ 各一組 三十五錢ヨリ 五令番と廿五番セル卷淵 三十五錢ヨリ クロム製淵 三十錢 理想のメガネ正十八金セル卷 玉入 八圓四十錢 大形絹天張眼鏡入サツク 十二錢 平町 店計時堂幸精 向店車動自チクキ路小穂才

各室の改築と 田町 石川亭 電話四三番 牛鍋 一枚三十錢 御飯 一人前七錢 上酒 一本三十錢 簡單且經濟的に御食事をなさるお方には最も便利で御座います何卒御利用下さい尚本日より二十三日迄中豚肉一割引

平新川町十九 木村病院 電話一六四番 産人科 院長 木村寅次郎 婦人科 醫學士 松永憲一 内臓外科 整形外科

看護婦急派の求めに應じます 平町南町 平看護婦會 電話三〇七番